# 地域福祉計画

## 背景

少子高齢化や成長型社会の終焉、深刻な経済不況、人間関係の複雑化などを背景に、生活上の支援を要する「生活課題」は多様化、潜在化の傾向を強めています。

こうした状況下で、さまざまな生活課題や福祉ニーズを速やかに発見し、地域全体で支えあうトータルマネジメントの発想とその仕組みとして「地域福祉の推進」がますます重要となっており、そのための指針となる「市町村地域福祉計画」策定の規定が平成１５年に施行されています。

とりわけ、福祉分野においては、多様なボランティア活動やＮＰＯ活動が活発となり、福祉の担い手も多様化しており、これらの活動を機軸に「生活者の視点」から新たな福祉コミュニティづくりを目指そうとする試みが全国的な広がりを見せています。

地域としての自立性が問われている今日、「地域福祉計画」策定への取組みは、地域からの「福祉改革」を実践するものであり、同時に福祉を通じて「住民との協働によるまちづくり」を実践していくことにつながるものとして、その高い相乗効果が期待されます。

その意味で、単独自治体のみならず、合併地域においても地域の一体感と具体的な地域住民相互の連携のあり方に関するビジョンづくりともなります。

## 視点

**視点１　住民との協働化の実践　～　幅広い住民参画による計画づくり**

「地域福祉計画」の最大の特徴は、「住民参画」であり、**“計画づくりそのものが地域福祉活動のはじまり”**との認識に立った多様な住民参画方式の取込み

**視点２　施策の重点性、実効性を担保する明確な目標づくり**

事後評価の視点を織り込んだ施策の打ち出しと、住民の行動指針となるわかりやすい目標づくり

**視点３　一体感のある地域コミュニティづくり**

**～　住民の自治意識の醸成と地域の一体感を高める計画づくり**

今後の少子高齢社会を見据えた、住民主導による一体感のある地域コミュニティづくり、特に合併地域における新たなまちづくりへの地域住民の一体感の醸成に資する策定手法の取込みと計画づくり

Copyright(c) 2005 GYOSEI INSTITUTE，All Rights Reserved

# ステップ

本計画は、以下のステップに沿って策定します。

**地域の現況・特性・資源分析**

- ●社会経済動向と広域動向、上位計画の把握
- ●地域の概況特性、社会資源の把握
- ●計画対象者の状況及び動向の把握

**地域ニーズ構造の把握**

- ●アンケート調査による生活課題や施策ニーズの把握
- ●住民懇談会等を通じた関係団体代表や福祉推進実践者の現状認識・施策ニーズの把握・分析

**地域福祉関連施策の現況・課題評価**

- ●保健福祉サービス
- ●医療環境、健康づくり事業
- ●ボランティア、社会福祉協議会等の福祉活動
- ●福祉教育、広報活動
- ●相談体制の整備状況

（その他生活関連施策）

- ●住環境、移動対策、防災・消費者対策
- ●就労支援環境、雇用対策
- ●生涯学習、スポーツ振興施策
- ●生きがい対策　　など

関連資料・データの収集分析
アンケート調査等の基礎調査

庁内関係課インタビュー調査等

**基礎調査・分析結果等に基づく現状問題点と計画課題の検討**

住民懇談会（ワークショップ）等の開催

**計画骨子案（中間案）の作成・協議**

指標化の検討

**地域福祉計画案の作成・協議**

Copyright(c) 2005 GYOSEI INSTITUTE, All Rights Reserved